

# 比較文化会報

May 1984 No.5

事務局 青森県弘前市総町13-1  
編集兼発行者 山浦拓造

弘前学院大学英米文学佐藤研究室  
電話 (0172) 34-5211 内線 32

## 『色彩から受ける感情の共通性』

副会長 鍋島能正

われわれ人間が、ある事物に対して抱く感情とイメージの中で、色彩から受けるものほど広い共通性をもつものはないであろう。

まず、「あか」と「あお」だけを取り上げてみても、日本語(漢語)と英語との間に、いかに共通した表現が見出されるか、その一端を示してみよう。

(1) 「あか」。ただ「あか」といっても、そこには「もちろむ、幾種類もある」。

(a) 「赤色」= 'Red'  
真赤に怒る = to be red with anger  
赤せに(銅貨、ピタ銭) = red cent  
但し、「赤面する」(赧然、赧愧)には blush を用いる。

(b) 「鮮やかな赤紫、深紅色、緋色」  
= Purple (古く紫の)  
crimson, scarlet.

これに「あか」と「あお」を混じった鮮やかな紫色。もう、地中海の古都 Tyre を産地とした 'murex' (貝わかす、のちの紫貝) からとった染料の色 (Tyreは古代の Tyro, Taranto, Tarantum) Cf. G. Gissing, *By the Roman Sea* の色は E. Burke のいわゆる「壮大なイメージを生ずる strong

red」で、多くの国で、「高貴」の意味に用いられている。

to be born in the purple  
im purpur geboren  
être né dans la pourpre

紫衣(君主の服)竹の園生に生まれぬ。  
'scarlet' も、同じく「高貴」を意味する。

raised to the purple = 枢機官の職に上る。  
scarlet hat = 枢機官の職。

(2) 「あお」。日本語では、この色の中に「緑」をも含むので、一緒に扱わなければならない。

「あお」は、「碧海」「蒼海」「青天」などのみならず、「海」「空」のいずれの場合にも用いられるが、英語における例は次の通り。

'I'm on the sea! I'm on the sea!  
I am where I would ever be.  
With the blue above and the blue below.

And silence whersoever I go.  
W. Procter Bryan: *The Sea*  
(1787-1874)

但し「顔が青い」とは 'pale-faced moon' (*King Henry V* part I Act sc. 3) のように、'pale' が用いられるが、むしろ 'blue meagre hag' (青やめたやめた醜女) (*Milton, Comus*) のように 'blue' も用いられた。なお「青い顔をして元気ななり」とは 'be in the blues' のように 'blue' が用いられ、「愉快」の反対は、つまり、「下味のなさ」の意での 'blue' が 'blue Monday' とし、また長い休暇後の月曜日を 'black Monday' というのは周知のとおりである。

既述の如く、日本語では「あお」の中に「緑」が含まれるが、英語では「青葉」「草木」を「さわやか」「green leaves」「greens」などいふように、はっきり区別して 'green' を用いる。

また「青春」の「青」も 'green' であり、「元氣旺盛」の意でも用いられる。

'His hair just grizzled  
As in a green old age' Dryden,  
*Oedipus Act III Sc. 1*

'Like leaves on trees the race of man is found  
Now green in youth, now withering on the ground' Pope, *Iliad* Bk vi 11. 178-179

Thy leaf has perished in the green.  
Tennyson, *In Memoriam* Lxxv iv  
また「年が若いことからの「未熟」の意

義をもつ。これは青二才の「青」にあたる。

My salad days.

When I was green in Judgment.

Antony and Cleopatra Act. I Sc. 5

The green donkey driver.

R. L. Stevenson, *Travels with a*

Donkey

以上は、「あか」と「あお」についての、それぞれの国語間の共通点の一端を述べたにすぎない。

次の機会には、更に多くの共通性をもつ「白」と「黒」について述べることとする。(前弘前学院大学教授)

## 変化と不変

監事 奈良岡 保

商業高校の校長として感じたことの一端を述べ、近況・雑感報告と致します。

「日進月歩」という言葉があるが、最近の科学文明の発達はまだことに著しく、これに対応してゆくのが大変な時代になってきた。

特にその代表的例でも言うべきものが情報処理に関する部門であろう。機器本体の構造、製作に関するハード・ウェア部門であれ、驚く程のスピードで開発、研究が進められていて、我々の生活に計り知れない程の恩恵を与えている。十八世紀のイギリスに鉄の大量生産を可能にした発明の時代を産業革命と言つて

いるが、現代はまさに第二の産業革命時代と言われている程である。

従つてよりよい機器の開発をめぐる競争も熾烈を極めこの分野での最先進国と言われている日・米間、国内での日立・富士通・東芝等各メーカー間の競争等は国際的緊張を生み出す程となっている。

こうしていわゆるコンピュータ時代に突入してしまつた今日、我々商業高校に籍を置く者は好むと好まざるにかかわらず、この現実には正しく対応してゆく努力に迫られているのは当然で、これまで長い間定着して学習してきた商業に関する各教科、科目、単位数といった教育の内容は勿論、本質的には「商業教育は如何にあるべきか」と言つた根本問題の検討が念頭から離れることがないこの頃である。

世の中の変化に正しく対応し、誤りなき見通しを立てて進むことの難しさがここにもあり、世の人々はいつの時代もその努力を続けてきたのである。

しかしながら反面、世の中とは流れる水のごとく、絶えず変わり流れ去つてしまふ、それだけのものであるうか。

川の水は流れ去り、刻々新しい水が流れてくる。絶えず変化する。とみるのも確かに一つの真実である。が、水が流れているという一番の基本は何も変わっていない。マクロ(巨視)的に事実をみるもう一つの見方があるかどうか問題である。

どんな機械が、情報が、文明が様変わ

りしてもそれらを創り出す人間の生き方そのものは何も変わっていない筈である。わかりやすく言うなら、有史以来人間は「幸福」を求めて生活してきたのである。数多くの戦争や自分だけの欲望充足のための失敗の歴史を繰り返しながらやつと辿りついた一つの結論が民主主義の生き方である。しかしこの結論を実践することは本当は中々難しい。

忍耐、協調、努力、思いやりといった各個人に求められる諸徳目は、コンピュータ時代であれ、原始時代であれ、人間の歴史を通して不変の生き方であつた。これらの力を身につけた者でなければ、逆に二十一世紀をよりよき時代として幸福に生きてゆけるだろうか。

生徒諸君の賢明な思索を切望する次第である。(青森県立黒石高校校長)

## 短期海外留学

新島学園女子短大

太田 敬雄

一九八三年四月に国際文化学科だけの単科短大として開学した新島学園女子短期大学。その初年度をしめこくる企画として今年の春、二つの短期海外留学が計画・実行された。

二月二十六日に二〇名の学生が台湾に、その二日後には二七名がアメリカに向いそれぞれ約一ヶ月の研修をつんできた。このうち、アメリカ行き企画を私が

担当した。弘前大学に勤めていた時から親交のあったテネシー大学マーティン校(UTM)の国際交流部、アイスタホルド部長に協力を要請し、快諾を得られたのは幸いだった。

一年以上も準備にかけただけあって、実に内容の豊富な、しかも安全なプログラムができた。学生達は三週間UTMで英語とアメリカ文化を学んだあと、約一週間ニューヨークとボストンを廻つて帰国の途についた。特にUTMでのプログラムの充実度は他に類を見ないと言えよう。

しかし、新島の短期アメリカ留学の最も誇りとする所は、アメリカの人々とのふれあいの豊さ、あたたかさであると思う。本などから間接的に外国を学んだ時代から、見てくるだけの海外「旅行」の時代を経て、今は外国の人々とのふれあいを通して肌で外国を学ばなければならぬ時代に入っている。短期海外「留学」と名づけた由縁はここにある。

そろそろ第二回短期留学生を募集し、オリエンテーションを始める時が来ている。

## 論集『比較文化研究』

### (第一号)『発刊』

『比較文化研究』(編集責任者・芳賀肇)第一号が一九八四年六月一日発刊された。「アメリカ女流作家、ヘレン・ハンプ特集」の色彩を帯びて、(1) The

Anglo-American Relation in Helene Hanft (芳賀馨) (2) The Interviews with Helene Hanft (3) The Humble and Rustic Life in William Wordsworth (町屋昌明) (4) 人名の頭音の比較研究(森一)が掲載されている。第二号は、来年六月発行予定。投稿希望者は、福島県立医科大学・外国語講座・芳賀馨教授へ照会のこと。

## 不思議の国へ

佐藤 憲 和

『ガリヴァ旅行記』、『ロビンソン・クルーソー』と言うと、元々は大人の読物で子どもにも読まれるようになった本だと答える。『宝島』、『アリス』と言うと、大方の人はこれこそ子どもの本と思う。

しかし、同じことをイギリス人に尋ねたらどうだろう。"Well, yes or no"と答えるのではなからうか。第一、大人の読物だの、子どもの読物だのと言った分類の意義をいぶかるに違いない。この国では、学者・弁護士・医師などが『宝島』、『アリス』に夢中になっていても、誰れもそれを怪しむことはないのだから。

トニ・マニエルは『イギリス人の生活』(クセジュ文庫)の中で、『フランス海岸から飛行機で十分のところの一つの奇妙な国がある』と述べているし、な

よりもシエクスピアが『イギリス人は全体が狂人だからハムレット様の狂気も目立たない』と暴風人に言わせいる。その奇妙な国に今年の十二月から文部省の在外研究員として八カ月滞在の予定である。近況報告まで。

(弘前大学教養部)

## 近況報告

桜の聖母短期大学 斎藤 栄 二

本を大修館からいただきました。書名は「英語を好きにさせる授業」です。学校の英語教育は、英語を好きにさせるよりは嫌いにさせる方に動いているようです。そこをどう考えようと思いました。時間があつたら一読いただければ幸いです。

兵庫教育大学大学院 小林 一 也

数学科に籍を置き、論理について研修しております。今までの人生でもっとも机に向つた一年間でしたが、あまりに受動的であつたと反省しています。残り一年、私のやりたいことを、私の思うように勉強したいと考えております。

福島県立医大 芳賀 馨

アメリカにもないという日本の大学。年度末三月三十日、アメリカ学会の自

出論題「ヘレン・ハンフ」チャリング・クロス街八四番地」の発表のため、初めて筑波大学を訪う。日本離れの大学に驚愕。

弘前大学 西村 清 巳

昨年夏はニューヨークでCATSなどの観劇のほか、H・ハンフ女史に会い著書にサインを貰う。帰路のロサンゼルスは日系人、三船敏郎が来ていた。気恥かしさから英語で話しかけてサインを貰う。ミラーのサインづいた在外研究だった。

自然の時間

町屋 昌明

現代は車社会だから我々は歩くことを忘れている。ペートウベンもカントも森の中を歩き、あせをかき、思索し、自然の移り変わる時間を知っていたから大作が生れたのだ。車からは大作は生れてこないのだ。歩こう！

東北女短 坂 本 道 直

昨年、本学会で研究テーマを発表したお陰で予定通りの半分をやり終えました(88紀要掲載)。今年は残り半分をせひやり遂げたい。このような機会でもなければ、我が身を打ちたたい何かをすることのできかねる無精者なので、有難く思っています。

福岡県立筑前高校 永田 強 一

今年度より入会です。トインビーは西歐文明は政治面と経済面で世界を征服したが、文化面では拒否されている」という意味のことを述べています。後者はともかく、前二者の世界征服とやらも疑わしいです。私は権利意識の比較を勉強してみたいと思っています。

黒石高等学校長 奈良岡 保

フィリング、楽しさ、恋愛といった表面的・感覚的な面にしか生き甲斐を求めようとしない高校生に、「おしん」の時代に共鳴している我ら老年族が「教育」のむづかしさを嘆くこの頃です。同じ地域の日本人——いい方法ないですか。

弘前大学教育学部 花 田 隆

昨年から学部でアセアンの教育研修留学生を受入れ、小生はその世話役をしています。文化差異の問題は殆どありませんが、コミュニケーションギャップに年中振りまわされています。彼等に何語で教育すべきか未だに迷っています。広くご意見を頂きたく思います。

# 或る想出と感じた事

青森大学 藤原 廉 作

昭和五十九年五月二十日、弘前<sup>カネ</sup>要における比較文化学会理事会の折、はからずも山浦会長開会の御挨拶の中に、「現代の諸学の研究に当りとかく細かく専門的追究傾向が窺われる。勿論専門的分野を詳細に追求する事も必要であるが、これからはそのみに限らずもう一歩大きく総合的見地より見る事並に全体的関連のものとして併せて研究対象の追求が必要であろうし、この点比較文化学会は勿論英文学追求と研究を母体として展開して来たが、他学会と比して他の研究分野との関連或いは視野広く、大きくとり全体的総合的研究と追求をしている所に大きな価値と重要特殊性をもっている学会である事を誇りにしており、一層の発展を祈る」のお言葉を話された時、それをお聞きし一種の驚愕と研究者態度の原点にふれた深い感銘を覚えた。

それは過ぎし一年前の八月二十五日、当日、自分が一生懸命カリフォルニア大学において学位研修の論文(経済史)説明の際、(通訳つけず自己の劣弱な英語力をもって、それこそ油汗流しつ)、集合した学者や研究者は必ずしも経済関係者のみでなく、地理、歴史、文学(哲学)、その他およそ経済とは直接無関係な人々が同席し、質問し、討論していた雰囲気は正に総合的全体的関連上より

見、論じての質疑応答であった事がピンと響いたのである。正に山浦会長の御挨拶通り、決して詳細専門家による狭小な判断でなく、近視眼的追求でなく、全体の流れに或る特殊的部分的研究対象を浮へての判断、「総合的研究対応と追求性」はこれからの二十一世紀へ伸びる字問或いは研究構想の原点であり、より広く、大きい展開と発展に対するスプリングボード以外の何物でもない明確に確信する次第である。ここに本比較文化学会の存在と展開上の重要価値と存在意義が基本的に備わっていると確信する事を懼らない次第である。

一昭五九・五・二五一 以上

## 福島支部四月例会

福島支部例会が左記の通り福島県立医科大学で、一九八四年四月十日開催された。研究発表一題

町屋昌明「十和田湖と The Lake District —— ウィリアム・ワーズワースの自然——」

終って「海外生活あれこれ」について 参会者一同の懇談会(於:ボンジュール)。

## 投稿についてお願い

次回大会から、次のような規定で、原稿をお寄せ下さるよう、お願い致します。

### 1 研究発表レジメ

(1) 5月1日必着で事務局まで。

(2) 横書四〇〇字詰原稿用紙 B5判 (西洋紙半分大) 2枚。

レジメはそのままコピー、製本致しますので、できればワープロ等でタイプした原稿ですときれいです。

### 2 シンポジウム レジメ

(1) 及び(2)とも研究発表の場合と同じ。

### 3 「金報」記事について

(1) 5月1日必着で事務局まで。

(2) 研究発表とは異なり原稿の大小は問いませんが、一段は18字×32行に組んでおります関係上、18字×〇行で投稿願います。

(例) 近況報告欄ですと18字×7行。

### 4 研究論集「比較文化研究」

(1) 毎年5月1日必着で、福島医大外国語講座芳賀警教授まで。

(2) 詳細は芳賀警教授までお問い合わせ下さい。(事務局)

## JACC行事記録

。事務局打合(59・3・2(金))  
於 弘前学院大学

① 第6回大会シンポジウム・研究発表  
に関して

② 機関紙「会報」№5の原稿依頼の件

③ レジメ集「比較文化論」№2の応募  
の件

④ 論文集「比較文化研究」№1の応募  
の件

(出席者 西村・佐藤(憲)・佐藤(幸))

。福島支部四月例会

前記の通り、福島医大で行われた。

。理事会(59・5・24(木))

於 弘前「要」

来弘中の芳賀先生も参加し、第6回大会の理事会・総会に関する議題で開催された。

(出席者 山浦・花田・芳賀・藤原・奈良岡・西村・佐藤(憲)・小林(俊)・佐藤(幸))

。論集「比較文化研究」第一号

前記の通り、学会誌第一号が発刊された。

。第6回日本比較文化学会大会

別紙プログラム通りの予定で行われる。